

東北農業経済学会 Newsletter ◆ 2020 秋号

役員改選について

2020年11月21日（土）の総会において新理事が承認されました。同日開催された新理事会において会長に伊藤房雄会員、副会長に鶴川洋樹会員、角田毅会員、迫田登稔会員が選出されました。次期の理事・監事・評議員・顧問はp5のとおりです。ご確認ください。

第56回 福島大会報告

2020年11月21日に第56回大会（福島大会）が、前年に開設したばかりの福島大学食農学類にて開催されました。コロナ禍のため、例年の実施時期を延期し、かつ期間も短縮してオンラインを基本とした開催となりました。午前中に個別報告、午後には大会シンポジウムを行いました。ともに報告は、YouTube 東北農業経済学会チャンネルに動画等をアップし対応しました。シンポジウムテーマは、第49回大会（福島大会）「原子力災害と福島県農業・農村・農協」の延長で、「大震災後の福島農業再生の到達点と課題—復興の歩みを振り返り今後の10年を展望する—」とし、荒井と冬木勝仁会員（東北大学）が共同で座長を務めました。4報告と、川内村長遠藤雄幸氏による特別講演資料「原子力災害からの復興の歩み」もアップしました。第1報告「放射能汚染対策・流通風評対策 10年の総括に向けて—福島米の安全確保の新段階と再生の方向—」小山良太会員（福島大学）、第2報告「原子力被災地域における水田農業の変容と新たな産地形成—福島県川内村を事例に—」則藤孝志会員（福島大学）、第3報告「地域資源を活用した循環型・広域連携型の阿武隈地域農村の復興」林薫平会員（福島大学）、第4報告「福島県における震災後の農業経営高度化の動き」原田英美会員（福島大学）。

これら報告を受け、総合討論のみリアルタイムで実施しました。総合討論は事前登録とし、42名の登録がありました。小野智昭会員（農林水産政策研究所）、新田義修

会員（岩手県立大学）による多岐にわたるコメントを受け、論点を明確化していきました。また伊藤房雄会長の中間発言も交え、活発な意見交換が行われました。

個別報告は報告動画提出、若しくは報告論文投稿とし、例年よりやや少ないものの、21本ありました。その内訳は報告動画提出+報告論文投稿が6本、報告動画提出のみ7本、報告論文投稿のみ8本です。コロナ禍においても活発な研究活動が行われていることが示されています。報告動画13本に対し、座長として10名の方にご協力をいただきました。また福島県農政部長松崎浩司氏、福島県農協五連会長菅野孝志氏の来賓挨拶動画も収録することができました。残念ながら懇親会は開催することはできませんでしたが、ほぼ例年並みの内容のある大会になったと思っております。ご協力いただいた全ての方々に記して感謝申し上げます。なお、今大会は、福島大学食農学類との共催で実施したことを最後に付記します。

福島大会実行委員長 荒井 聡（福島大学）

役員会・総会報告

福島大会の開催に併せて2020年11月20日（金）に役員会が、11月21日（土）に総会がそれぞれオンラインにて開催されました。主な内容は次の通りです。

1. 2019/20年度の活動について

(1) 会員数の動向

2020年7月31日現在、個人会員240名（うち一般会員212名、学生会員28名）。

団体会員 5団体

(2) 2019/20年度 事業報告

2019年

11月 ニュースレター2019年秋号発行

2020年

2月 農村経済研究 第37巻第2号（論文特集号）発行

3月 2019/20年度 第1回常務理事会開催（東北大学農学部、31日）

- 7月 ニュースレター2020年春号発行
2019/20年度 学会賞候補者募集
2020/21年度 研究助成募集
農村経済研究 第38巻第1号(宮城大会特集号)発行
- 8月 会員名簿発行
- 9月 臨時常務理事会(オンライン、14日)
- 10月 2019/20第2回常務理事会(オンライン、29日)
農村経済研究 第38巻第2号(論文特集号)発行
- 11月 第56回 福島大会開催(オンライン、20-21日)

2. 2019/20年度学会賞の選考結果について

次の記事をご覧ください。

3. 2020/21年度研究助成対象者選考結果について

早川紘平会員への助成が決定。

4. 学会賞(木下賞)表彰規程の改正について

学会誌賞の授賞の対象に関する規定を次のように改正することが承認されました。学会ホームページにおいて最新の規程をご確認ください。

【改正前】

第3条 …学会誌賞の対象は本学会学会誌掲載論文のなかで東北農業経済研究に対して学術上著しい貢献の認められるものとする。…

【改正後】

第3条 …学会誌賞の対象は農村経済研究掲載論文のなかで東北農業並びに農業経済学に対する学術上著しい貢献が認められるものとする。…

5. 次年度大会開催地について

岩手県での開催が承認されました。

6. 2020/21年度事業計画について

以下の内容で承認されました。

- ・新理事会(2019/20年度総会終了後に開催)
- ・「農村経済研究」発行 第39巻第1号(福島大会特集号)、第39巻第2号(論文特集号)
- ・第57回 岩手大会開催
- ・2020/21年度 学会賞表彰
- ・2021/22年度 研究助成
- ・ニュースレター発行(2021年1月下旬、2021年5月下旬=岩手大会案内を同封)
- ・常務理事会開催(2021年2~3月、7月下旬~8月上旬)
- ・J-STAGEへの論文搭載

- ・学生会員の会費徴収方法の検討
- ・団体会員の拡充(各県及び農協中央会、土地連、農業共済組合、農業会議、農業公社等、団体会員への入会呼びかけ。県担当理事を通じて交渉)。

7. 次期理事の承認について(p5参照)

次期理事が承認されました。任期は2020年11月21日から2022年8月31日までです。

2019/20年度学会賞

2019/20年度東北農業経済学会賞(木下賞)実践賞、奨励賞および学会誌賞は、以下のように決定しました。受賞理由は以下のとおりです。

1. 実践賞

◆受賞者：菅野 典雄(前 福島県飯館村村長)

◆受賞対象：「長年にわたる女性の社会進出支援と自律する農村社会へのチャレンジ」

◆受賞理由：受賞者は、長年にわたる様々な実践活動により、飯館村農業、農村の発展に大きく貢献してきた。その実践活動は、生産者、地域のリーダー、行政のリーダーなど、その立場を変えながらも実践されてきたものである。また、一連の実践活動の中で貫かれてきたのが女性や地域住民が地域振興に参画する仕組みの構築である。飯館村村長として、自身が主体となった実践の他、「いいたて夢創塾」塾長として仕組んだ「若妻の会」など、一種の導きによって農村女性の社会進出を実現するなど、その実践活動は多岐にわたる。このような実践活動を成しえたのは、受賞者自身が農村に生まれ、生産者として農業に携わる中で育まれた価値観や問題意識、受賞者の優れた感性と行動に基づくものである。これら一連の実践活動は、飯館村農業、農村の発展に大きく貢献したものであり、東北農業経済学会賞(木下賞)・実践賞の授与に相応しいものである。

2. 奨励賞

◆受賞者：小山田 晋(北海道大学)

◆受賞対象：「地域住民の価値観の相違に着目した合意形成支援研究」

◆受賞理由：受賞者は、地域における合意形成支援の視点から地域住民の価値観に着目し、住民間の態度に相違が生じる要因に関する研究に取り組んできた。対象業績では、野生鳥獣問題や震災復興に際しての課題に関する研究に取り組んでいる。野生鳥獣問題では、ゲーミング・シミュレーションなどを用いて価値観の対立を乗り越

える発展的な合意形成のあり方を提示している他、震災復興に際する課題については、ナラティブ・アプローチを用いて農業経営体が農業の復興を主体的に先導する重要性を示している。研究手法、成果、実践性といった点で優れた成果を上げつつあり、一層の研究の発展と社会への還元が期待できる。今後、具体的な施策への反映など、知見の実践的な活用方法についても研究が深まることを期待したい。以上のように、候補者の業績は将来の発展が期待されるものであり、東北農業経済学会(木下賞)・奨励賞の授与に相応しいものである。

3. 学会誌賞

学会誌賞は、第37巻第1号及び第2号に掲載された候補論文15編を対象に選考した結果、以下の二つに決定しました。

学会誌賞①

◆受賞者：上田賢悦・清野誠喜

◆対象論文：「JA 農産加工事業における営業活動の特徴—PAC 分析による接近—」(第37巻第1号)

◆受賞理由：本論文は、JAの農産加工事業を対象に、営業担当者の営業活動に対する行動特性や心理特性をPAC分析により明らかにした論考です。その結果、農産加工事業における営業担当者は、原料調達のために組合員や生産組織への働きかけを行う「対内的活動」と、顧客への働きかけを行う「対外的活動」を、連動させた営業活動を実践していた。そして、この営業担当者の行動や態度の形成メカニズムを「メタ認知的知識」「目標達成志向」「顧客志向」の3つの視点から整序し、実践における直接的な経験を通じた学習により獲得していると結論している。営業活動という全体像の把握が難しい取り組みを対象に、PAC分析という心理学的手法で接近し、定式化できている点に新規性があり、高く評価されました。この分野および手法を使った今後の研究展開も期待されます。

学会誌賞②

◆受賞者：長谷川啓哉・廣田寛央・奈良浩熙・花田俊男

◆対象論文：「リンゴ作における新しい栽培方式の植栽初年度生産要素投入の特徴—つがる弘前農協実証圃場における大規模試験に基づく—」(第37巻第2号)

◆受賞理由：本論文は、近年注目される複数の新しいリンゴ栽培方式について、慣行のマルバ栽培、わい化栽培に対する初年度生産要素投入の特質を、青森県弘前市における実証試験から作業時間や生産資材費などについて明らかにした論考です。果樹の栽培方式の経済性研究は長期間を要することから、これまで営農実態データを

用いたリンゴの樹体資本形成の分析に関する論文公表はほとんどみられませんでした。そのなかで、現地農家における新技術の実証試験結果を論文として公表することの意義は大きく、研究期間が長期に及ぶ果樹では一層その価値が高いと評価されました。ただし、初年度の費用分析だけでは栽培方式の経済性の結論を得ることはできないことから、この論考に続く、研究成果の公表が期待されます。

受賞者のことば

この度は東北農業経済学会実践賞を賜り、誠にありがとうございます。

村の長として長年の「村づくり」への評価でありました。以前は、一般的に住民に対し知らしむべからず(いろんな意見が出てやりずらくなる)近づかべからず(公平公正を欠くことになる)的などころがありましたので「開かれた村政を」が私の強い想いでした。ところが一部の職員にとっては「行政が何もそのようなハデなことをすべきではない、法令遵守が原点」的な意見もありました。私は村内外にオープンにPRすることは行政の説明責任になるはずの考え方で各種事業を進めてきたところでした。

事業を進めるに当たっては、常に「ないものねだり」ではなく「あるもの探し、あるのも活かし」の発想で、さらに一つ一つの事業に「ものがたりをつくること」の視点を加えてです。「スローライフ」を「までいライフ」に置き換えたのもその一つでした。

今回の受賞心より御礼申し上げます。

菅野 典雄 (前 福島県飯館村村長)

このたびは奨励賞を賜り誠にありがとうございます。今から十数年前、私が初めてこの学会で報告したのは農村風景の非経済学的価値に関する研究でした。CVMのように環境の価値を貨幣量だけで評価しようとするアプローチに対して反感があり、そうしたアプローチからはこぼれてしまう価値があることを実証的に明らかにしようという主旨の研究です。その後、その場の成り行きや思いつきで様々なテーマや研究手法に手を出してきましたが、根本には、人間の考え方や生き方の多様性・複雑性を見ようとする考え方に対する違和感があります。農業経済学という学問は、「経済学」でありながら、

経済学（特に近代経済学）からはみ出てしまう部分を多く持っているように思います。そうした枠からはみ出てしまった部分で自分にも何かやれることがあるのではないか、という思いでこの学会に関わってきました。どんなところにボールを投げて受け止めてくださる会員の方々の寛容さと知見の広さにいつも感服しております。まだまだこの学会で学んだことをお返しできているとは思えません。今後も型にはまらずに研究に取り組んでいく所存ですので、お付き合いいただければ幸いです。

小山田 晋（北海道大学）

この度は、東北農業経済学会木下賞（学会誌賞）という素晴らしい賞を賜り、身に余る光栄です。まずは、論文審査で多くの助言をいただきました査読者の先生方、ならびに学会誌賞にご推薦いただいた編集委員の皆様、選考委員会の皆様に、この場を借りて厚くお礼申し上げます。

受賞の対象となった論文は、JA 農産加工事業における営業担当者の意識や態度の変容という被験者本人にとっても言語化しづらい内的世界について、質的分析と量的分析（クラスター分析）を組み合わせた個人別態度構造分析（PAC 分析）という臨床心理学的な調査分析手法を用いて明らかにしたものです。

ところで、東北農業経営学会は、私にとって思い入れのある学会です。秋田県職員（普及指導員）であった私が農業経営研究の世界に足を踏み入れ、初めて論文投稿をしたのが本学会でした。そのような思い入れのある学会から研究活動を認められ、学会誌賞を頂けたのは幸甚の至りです。顕彰して下さった本学会と会員の名誉に泥を塗ることのないよう、またこれが最後の授賞経験とならぬことを目指して、たゆまず研究を続けてまいりたいと思います。今後とも、ご指導ご鞭撻の程よろしくお願いたします

上田 賢悦（秋田県立大学）

このたびは木下賞（学会誌賞）を賜り、誠に光栄です。学会誌賞はこれで3度目、賞状に書かれている御名は神田健策先生、小沢互先生に今回は伊藤房雄先生です。学会を表に影に支えられてきた3先生から榮譽を受けることが出来、誠に果報者に存じます。今回はこれまでの受賞と違って大いに異なる点があります。前回までは個人での受賞でしたが、今回は共著者であるつがる弘前農協の廣田寛央指導課長、奈良浩熙係長、果茶研の花田俊男

主任研究員との共同受賞です。今回の論文のテーマ「果樹栽培方式の評価」は実証試験の準備に多大な努力と才覚が必要で、私はそれを論文としてまとめたに過ぎません。今回の褒功は情熱を持って実証圃場を作り上げた廣田課長、データを準備した奈良係長が第1であり、わが研究の盟友花田主研の功がそれに次ぐものです。厚かましく言うならばチームで得た受賞と考えています。私は4月に企画部門に転出しましたが、実証圃場にはまだ予算が投下され、安江紘幸会員が継いでくれています。このわが国果樹界の宝とも言える貴重な圃場での成果がまだまだ続くことをお知らせし、学会員の皆様へのお礼に代えさせていただきます。

長谷川啓哉（農研機構東北農業研究センター）

論文投稿のご案内

編集委員会では、多くの会員の皆さんからの論文投稿をお待ちしています。原稿は和文・英文どちらでも結構です。学会ホームページからダウンロードできる「論文投稿用テンプレート」を基に論文を作成し、論文投稿用メールアドレスに投稿票とともにお送りください。

論文投稿用メールアドレス:

submissiontojrse@grp.tohoku.ac.jp

詳細については学会ホームページの「会則・規程」の『農村経済研究』投稿規程をご覧ください。論文投稿に関する問い合わせ先は以下の通りです。

東北農業経済学会『農村経済研究』
編集担当理事 平口 嘉典 あて
女子栄養大学 食料・地域経済学研究室
〒350-0288 埼玉県坂戸市千代田3丁目9-2 1
TEL/FAX 049-282-4782
E-mail hiraguti@eiyo.ac.jp

編集後記

◆本来 11 月の発行を予定しておりましたが、福島大会および諸会議・総会が昨年 11 月下旬に延期開催となったためこの時期の発行となりました◆役員体制が新しくなりました。会員の皆様におかれましては、引き続きご協力のほどよろしくお願い申し上げます。◆次号 2021 年春号は 5 月頃の発行を予定しております (N)

東北農業経済学会 理事・監事

2020年11月21日総会承認 任期：2020年11月21日～2022年8月31日

役職	選出枠	担当	常務理事	県担当	氏名	所 属
理事	宮城	会長（研究助成担当・事務局担当兼務）	○		伊藤 房雄	東北大学
理事	秋田	副会長（学会誌担当）	○	○	鶴川 洋樹	秋田県立大学
理事	宮城	副会長（企画担当）	○	○	角田 毅	東北大学
理事	農研	副会長（学会賞担当）	○		迫田 登稔	東北農業研究センター
理事	秋田	庶務担当	○		上田 賢悦	秋田県立大学
理事	会長指名	学会誌編集担当	○		平口 嘉典	女子栄養大学
理事	会長指名	庶務担当	○		中村 勝則	秋田県立大学
理事	会長指名	電子ジャーナル担当			吉仲 怜	弘前大学
理事	会長指名	学会賞事務担当			安江 紘幸	東北農業研究センター
理事	会長指名	広報・Web管理担当			高山 太輔	福島大学
理事	山形	学会誌編集事務担当			藤科 智海	山形大学
理事	青森			○	石塚 哉史	弘前大学
理事	青森				泉谷 眞実	弘前大学
理事	岩手			○	新田 義修	岩手県立大学
理事	岩手				前山 薫	岩手県農業研究センター
理事	宮城				大和田 祥代	宮城県農政部仙台農業改良普及センター
理事	山形			○	須藤 英弥	山形県農林水産部
理事	福島			○	荒井 聡	福島大学
理事	福島				新妻 俊栄	福島県農業総合センター
理事	新潟			○	伊藤 亮司	新潟大学
理事	新潟				斎藤 順	新潟食料農業大学
理事	農研				笹原 和哉	東北農業研究センター
理事	域外				宮入 隆	北海学園大学
理事	域外				福田 竜一	農林水産政策研究所
理事	域外				藤井 吉隆	愛知大学
理事	域外				椿 真一	愛媛大学大学院
監事					菊地 敬子	宮城県農政部仙台農業改良普及センター
監事					柘植 徳雄	元 東北大学
評議員	青森				小林 渡	青森県産業技術センター農林総合研究所
評議員	青森				小山 主税	青森県農協中央会
評議員	青森				成田 澄人	青森県農林水産部
評議員	岩手				前山 薫	岩手県農業研究センター（理事と兼務）
評議員	岩手				照井 仁	岩手県農協中央会
評議員	岩手				今泉 元伸	岩手県農林水産部
評議員	宮城				高橋 慎	宮城県農協中央会
評議員	宮城				曾根 文浩	宮城県農政部
評議員	宮城				高田 文子	農林水産省東北農政局
評議員	秋田				近藤 悦心	秋田県農協中央会
評議員	秋田				安藤 鷹乙	秋田県農林水産部
評議員	山形				後藤 雅喜	山形県農協中央会
評議員	山形				丸子 武志	山形県農林水産部
評議員	山形				高橋 哲史	山形県農林水産部
評議員	福島				橋本 正典	福島県農協中央会
評議員	福島				服部 実	福島県農業総合センター
評議員	福島				星 源昭	福島県農林水産部
評議員	新潟				(調整中)	
評議員	新潟				高橋 尚紀	新潟県農協中央会
顧問					内田 幸雄	農林水産省東北農政局